

中央大學校歌

作詞 石川 道雄

作曲 坂本 良隆

編曲 三木 稔

一、草のみどりに風薫る

丘に目映き白門を

慕い集える若人が

真理の道にはげみつつ

栄ある歴史を承け伝う

ああ中央 われらが中央

中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも

揺るがぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢の花ならで

みのりの秋やめざすらむ

学びの園こそ豊かなれ

ああ中央 われらが中央

中央の名よ誉れあれ

三、いざ起て友よ時は今

新しき世のあさぼらけ

胸に血潮の高鳴りや

湧く歌声も晴れやかに

自由の天地ぞ展げゆく

ああ中央 われらが中央

中央の名よ栄あれ

中央大學応援歌

中央大学学友会選定歌詞

作曲 古閑 裕而

編曲 三木 稔

一、憧れ高く空ひろく

理想の光あやなせる

あ、中央の若き日に

伝統誇る白門の

闘い挑む旗揚げ

力、力、中央 中央

二、情熱と力の若人が

精鋭こそりふるいたつ

あ、中央の若き日に

雄叫ぶ血汐 紅は

闘魂たぎる火と燃える

力、力、中央 中央

三、我らが誇り覇者の歌

燦たり栄光我が生命

あ、中央の若き日に

今ぞ座らん覇者の座に

いざ勝鬨を揚げんかな

力、力、中央 中央

卒業の日に

母校 中央大学



総長・学長

ながい かずゆき
永井 和之

卒業生諸君の卒業を心から祝福します。

諸君の卒業する母校・中央大学は、現在六学部他に、ロースクールやアカンテイングスクール、そして、この4月より開講するビジネススクールといった専門職大学院をはじめ、大学院（七研究科）や九つの研究所といった高度の研究教育機関を有している総合大学であります（この4月には理工学部生命科学学科新設）。そして、本学は、明治18年に英吉利法律学校として創立され、2010年には125周年を迎えます。

卒業生諸君の卒業を心から祝福したいという事です。本学の建学の理念は、「英吉利法律学校設置広告」（郵便報知新聞付録第3731号明治18年7月20日）に残されています。そこで、まずいわれていることは、「實地應用ノ素ヲ養フ」ということです。そのことについて、初代校長の増島六一郎博士はその著した『契約法判決例』（1887年度講義録）で、イギリスの裁判官が培ってきた法の叡智を学び、事件の事実に対して法を適用する修練を自分で体得することが肝要であると述べています（山崎利男「英吉利法律学校覚書（三）—イギリス法の受容をめぐる—」史学第五二号211頁、中央大学文学部紀要2007・3/30）。

このような本学の創立者達の実地応用の素を養う（現在では、本学では実学と称しています）は、福沢諭吉翁が英吉利法律学校の開校式に祝辞として言ったことに次のような部分とは、意義が異なります。福沢論吉翁は人間必須の学問として法学を医学と並べて、「人間生活するに何でも法律問題がつきまとうから、法律は弁護士などの法曹にならないでも学んだことは無駄にならない。医学も医者にならないでも自分の身体のことを常に医者に任せておくのでは不安心であるから、医者に頼らなくても養生できるように医学を知らなければならない」ということで無駄だけでは役に立たないものもあるが、医学や法学は一日だけ学んでも役に立つ」と言っています（「福沢手帖111・平成13年12月20日」9頁「志としての『在野法曹の法律家—明治義塾から英吉利法律学校へ—東京法学院を経て中央大学へ—』金原左門・竹田行之）。

そして、本学の社会の課題に 대응する人材を輩出するという使命は、創立当時においても校外生制度として現在の通信教育にあたる制度をとっていることにも表れています。

このように社会の課題に 대응するという実学を建学の理念としている本学を卒業する諸君は、この中央大学を母校とする諸君は、これからの人生で、おかしきことはおかしきと感じる感性を堅持し、堂々と自己の信念に誠実に人生を送って欲しいと願っています。まさに質実剛健という本学の気風を自己の生き方としてください。

このような本学に学んだ卒業生は誠実であるという社会的な評価が定着しています。それはまさに本学の誇りであります。卒業生諸君も、この本学の伝統をふまえ、堂々と人生を倦むことなく進んでいってください。

私たち教職員は、諸君の母校である中央大学の伝統を守り、発展させ、そして、新しい世紀に燦然として輝く新しい姿の中央大学を目指して、できる限りの努力をすることを諸君に約束します。

125周年記念式典で会いましょう。

自分を磨き、社会貢献を！



法学部長
井上 彰
いのうえ あきら

卒業おめでとうございます。

つい先日まで、「諸君たちには前途洋々たる未来が開かれている」という言葉をはなむけとしようと思っていたところ、サブプライムローン問題をきっかけとする世界同時株安は、そのような気分を一変させ、前途に暗雲が立ちこめる状態となりました。そのような中で卒業、不安を覚えることもあるでしょうが、卒業までの大学での研鑽によって、諸君たちには不安を打ち払うだけの実力がついています。自信をもって社会に飛びだしてほしいと思います。ところで、大学での「学び」は卒業で一区切りが付きませんが、「学び」自体はこれからも続きます。法学部では、細かな専門知識よりも、基礎的な専門的知識とそれを応用する思考力と論理力を身につけさせることに重点を置いてきました。基礎的な知識からより詳細な専門的知識を身

につけることが、法科大学院では必要になります。また学部で学んだ専門的知識より、思考力や論理力が必要とされる職場では、具体的事例でその能力を磨いていく必要があります。いずれの場合であれ、大学で学んだことは、終着点ではなく、出発点であることをしっかりと認識しておいて下さい。

最後に、社会が諸君たちに期待しているいまひとつのこととして、「良き教養人であれ」ということがあります。大きな目で見れば、この4年間は、社会が諸君たちに学ぶ機会を与えたのです。今度は、社会に恩返しをする番です。大学で身につけた教養や専門的知識、批判的精神をもとに、社会がよりよい方向に進むよう力を貸してほしいと思います。環境問題を始め、大学で視野を広げた皆さんが、社会に貢献する番です。良識を持ったオビニオン・リーダーとして、それぞれの職場、地域で頑張ってください。さようなら。

学びの連続



経済学部長
松丸 和夫
まつまる かずお

ご卒業おめでとうございます。今まさに経済学部での学びを終え、次のステージへと羽ばたかんとする卒業生のみなさんに心からお祝いを申しあげます。

今日、新たな門出をされる皆さんに考えていただきたいことが二つあります。一つは、自分は大学で何を身につけたのか。二つめは、これから自分は何をしていくのかということです。

大学を卒業するということは、本人のみならず、御父母やご親族にとっても喜びです。しかし同時に、社会には大学を卒業しないで働き、生活している人々が多数います。大学の「大衆化」が進み、今日では大学卒業の学士号それ自体希少価値の小さいものとなりました。しかし、4年間の大学生活で何も身につけなかったとしたらそこに何の意味があ

りましょう。私は、大学卒業生にもとめられる資質の一つとして、自己分析を客観的におこない、環境の変化をきちんと認識できる知的能力が大切だと考えます。そして周囲に流されるのではなく、流れを作り出す能力を養ってほしいのです。

大学の外の社会では、みなさんの想像を超える厳しい試練が待ち受けています。しかし、どんなに困難なときでも冷静に事態を分析し、最も合理的な選択ができるためには、ねばり強さが必要です。

さて、このようにいわれて「不安」を感じる人がいたら、それは正常な感性の持ち主であることの証です。大学では身につけ得なかったことを負の財産と考えずに、「だからやるべきことがたくさんある」と前向きに取り組んでいただきたいと思います。人の一生は、学びの連続です。どうか活躍ください。

卒業の日に

これまででの学生生活を振り返るとき、ほぼ満足のいく学生生活を送ることができたと思う人もいれば、やり残したことが多かったと思う人も

返ってみてください。

おそらく皆さんは、中央大学商学部でいろんなことを学んだはずですが、嬉しいこと、楽しいこと、悲しいこと、悔しいことなど、いろいろな出来事があったことでしょう。

皆さんにとって、中央大学商学部での学生生活はいかがでしたか。何を学びましたか。自分はこれを学んだ、あるいは自分の専門はこれだといえることがありますか。また、どんな出来事がありましたか。どんな出会いがありましたか。

皆さんにとつて、中央大学商学部での学生生活はいかがでしたか。何を学びましたか。自分はこれを学んだ、あるいは自分の専門はこれだといえることがありますか。また、どんな出来事がありましたか。どんな出会いがありましたか。



商学部長

いしかわ
石川 鉄郎

自分を信じて、前向きに

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

研究する心に自信あり



理工学部長

たぐち
田口 東

研究を始めた当初は、ほとんど手探りの状況の中で、問題らしきものを見つけたでしょう。他の研究者の取り組みを調べながら、自分で答えを知りたい、もしくは知ること

ブランド力



文学部長

 うの
 宇野
 しげひこ
 茂彦

先日、父母懇談会の席上、ある方から中央大学のブランドを高めて貰いたいという要望が出されました。当今の世の中、なるほど銘柄を知られなくてはならない。そこで正月には箱根駅伝がいつも話題になる。優勝すれば全国に名が轟くというわけです。しかし、大学における本当のブランド力とは何でしょうか。

「一年の計は穀を樹うるに如くは莫し、十年の計は木を樹うるに如くは莫し、終身の計は人を樹うるに如くは莫し」という言葉があるが、君たちは此処でまさに人を樹えたのです。つまり学問を通じて友を得、多くの人間関係を築いたはずで、これは人生のあらゆる場面で君たちを利することでしょう。

地方に行くとか公務員や教員の方が中大の出身ですと云って挨拶にきて

くれることがよくある。また、なじみのレストランのご主人が中大出と分ったり、飲み屋で隣に坐った陽気な男が中大出の編集者だったり、基会所に行けば中大出身のインストラクターが居るし、OBの打ち手もたくさん居る。そういうえば、お世話になつている税理士さんも中大出身であつた。中大の卒業生はあちこちで活躍していて、そのような思い掛けない出逢は結構嬉しいものです。

わが校はやがて百二十五周年を迎えようとしているが、営々として人を樹えて来た結果でありましょう。

いま君たちは社会という土壌に植えられた一本の苗木です。皆さんその地にあつて大きく育つてください。それがわが校のブランドを高めることに他ならないのです。どうぞお元気で。

「より良い社会」に変える



総合政策学部長

 よこやま
 横山
 あきら
 彰

卒業おめでとうございます。

大学から旅立つ日がきました。皆さんは、大学で多様な異文化交流を体験してきました。入学時と比べてみて下さい。皆さんは、大きく成長しています。大学で学んだ事柄や経験した出来事や出会った人びとは、皆さんの成長の糧になっています。皆さん一人ひとりが、相互に触媒となり互いを大きく成長させてきたのです。このことを忘れないで下さい。自分の輝きは他者との係わりの賜物だと心して、これからの未来を切り開いて頂きたいのです。このように卒業の日を迎えることができるのは、ご父母やご親族のご支援の賜物だと心して下さい。

また卒業に際し、自分の素晴らしさを再確認して下さい。大学時代に一番輝いていた自分の姿を思い出して下さい。その姿こそ、皆さんの準備

拠になるのです。皆さんが将来色々な壁に阻まれたとき、その姿を通して、壁を乗り越えている自分を信じ描くことができるのです。自分を信じ愛でて大切にして下さい。そうすれば、更に輝いている未来の自分にも出会えるでしょう。それが、将来皆さんの新たな準備となるのです。

こうした準備を生成変化させる営みで、人は大きく成長します。自分の変化に注視しながら自分の力を増進させ、自分が属する社会を「より良い社会」に変えるように努力して頂きたいと思えます。と同時に、「より良い社会」の姿は人が違えば異なりますから、どのような社会が「より良い社会」なのかを他者に伝える努力もして頂きたいと思えます。

皆さんが更に大きく成長し、皆さんの大切にしていく社会が皆さんの力で「より良い社会」になりますように、心より期待しています。